

---

# すぱいんぐっ！

YFB

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

すばいんぐつ！

### 【Nコード】

N0893BA

### 【作者名】

YFB

### 【あらすじ】

爆発を知らせる赤いランプが照らす彼女は、まるで産まれたてのようだった。目が覚めた彼女は　　すべての記憶をなくしていた。しかし、彼女は立ち止まらなかった。

新たに記憶を作り出しながら、彼女は　　中海あおは国内最大の私立高校、『私立藍翠学園』通称『RSS』に入学する。そこで行われる勉強は　　スパイ授業！？そう、あおを助けたのは、スパイ組織のボスだった！！

少し先の未来。個性豊かな仲間に関まれながら、スパイ修行に任

務をこなし、恩人で大好きでボスな烈先輩のため、絶賛記憶更新中  
のあおは頑張ります！

## Mission・1 (前書き)

初投稿です。

この回は残酷表現があります。

ご注意ください。

# Mission・1

2012年 4月3日 AM1:00

『<sup>アール</sup>R、3分間だ……行け』

「<sup>ラシヤ</sup>了解」

セキュリティを示す赤いランプが青に変わり、カチャツという微かな音がした。

普段は自動で開く銀色の扉。しかし今はただの思い扉にすぎない。なるべく音を立てないように、静かに開けて中へ入る。

「任務完了。今帰る」

きっかり三分。後ろで、銀色の扉についたセキュリティランプが、

今度は青から赤に変わり、再びカチャツと音を立てて閉まる。

それを確認すると静かに元来た道を走り出す。

『前方から熱反応。武器も持つてる。三メートル戻った角を曲がって。部屋があるからそこへ』

確かに、前方から堅い靴の音がした。急いで右に曲がり、部屋へ入る。そして、通り過ぎるのに息を殺して待った。

足音が遠ざかっていった。

フウと小さく息を吐き、部屋を見回した。

どうやらこの部屋は牢屋の部屋だったらしい。

通路を挟んで両側に冷たく頑丈な鉄格子が部屋の奥まで続いている。

奥へ進んで行くと、どの牢屋も悲惨な状態だった。

ある牢屋は、男とも女とも区別のつかない状態の人間が血を流して死んでいた。また別の牢屋は、ミイラ化していたり、白骨化しているものもあった。

部屋の先にはまた別の部屋があった。そこから、水のような光の影がゆらゆらと漏れていた。

本来ならば、部屋の中を見ずに戻って部屋を出るべきなのだろう。しかし、通信はこの部屋に入った時から途絶えている。どうやら、

この部屋はどんな電波でもシャットアウトしてしまうらしい。

外からの指示なしで行動するのは危険だ。その場合、知らない道に迷い込むより、元来た道を戻った方がはるかに安全で確実だ。

しかし、手は目の前の取っ手を掴んでいた。

ほとんど無意識だった。

この先に何かあるような、そんな焦りにも似た気持ちになって扉を開けた。

……ピチャン                      ピチャン

飛び込んできたのは、海のように鮮やかな青。

部屋の中心に溜まり、揺れる水。

……その中に、何かある。

まるで引き寄せられるかのように部屋の中へ足を踏み出した。

ヴーッヴーッヴーッ!!!

踏み出した瞬間、侵入者を告げるけたたましい音とともに赤いランプが点滅し始めた。

そして、機械的なアナウンスが響く。

シンシュウシャ シンニユウシャデス ダイサンケンキュウシ  
ツニテ シンニユウシャ ヒミツホジノタメ タテモノヲ バク  
ハシマス

『R! R! やつと通じた! お前何やってんだ! すぐにそこから逃げろ! 聞いてんのか! オイ、R?』

バクハマデ ノコリ ゴ フン

無線からの声も、もちろんアナウンスの声も聞こえていた。しかし、体はいうことを聞かない。

前へ、前へとまるで、引かれるように部屋の中心へ向かった。



そして、それが何か分かった瞬間、時が止まった。

水の中にいたのは一人の少女。

傷一つついていないような滑らかな肌。

長く黒い髪は濡れ、その肌に張り付いていた。

赤いランプに照らされ、体についた水が、まるで血のようである。

十五・六の娘だ。

この廃れた研究所で、生き物のいない世界の中で、たった一人、生まれたばかりのような少女が、そこにいた。

頭を現実に戻させたのは、爆破三分前を告げるアナウンスだった。

そこからは、もう立ち止まらなかった。

半分水の中にいる少女をすくい上げ、出口へ向かって走り出す。

バクハマデ ノコリ ニ フン

バクハマデ ノコリ ジュウ キュウ ハチ……

「おっ、出てきた！」

仲間が、建物から出てくるその姿を見て安心の声を上げた。

「何やってたんだR！遅い……おっ、お前、連れてきたのか！？」

その叫びは、大きな爆発とともに空気へ溶けていった。  
。



## Mission・i (後書き)

初投稿でいきなり暗くてすみません。

これから明るくしていくので、もう少しお付き合いいただけたら幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0893ba/>

---

すばいんぐっ！

2012年1月2日00時48分発行